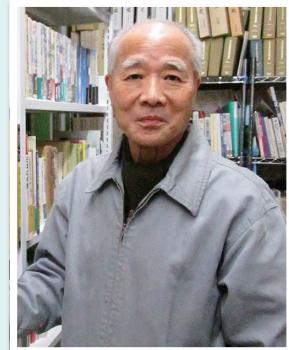


歴史から学ぶ 女人禁制とヒマヤ

西海賢二さんは歴史学・民俗学の博士として長年研究を重ねてこられました。特に石鎚山を含む西条市周辺の歴史風俗に造詣が深く、現在は市内に居を構え活動されています。今回、かつて地域で利用されていた「ヒマヤ」という施設についてお話を伺いました。



にしがいけんじ
西海賢二さん

根強く残っていた「不浄」の観念

西条市の民俗調査を始めて47年になります。かつてこの地には「ヒマヤ」という施設が点在していました。これは生理中の女性が一定期間過ごす小屋のこと、古くから日本各地にあったものです。背景には、生理や出産の血を「穢れ」や不浄と見なす強い観念がありました。

西条市西之川には、このヒマヤが現存しています。昭和54年に調査したものですが、令和3年に地元の主導で建て替え保存されました。瀬戸内圏に残る唯一の遺構であり、今後も万全な保存が望されます。

慣習がもたらした差別の歴史

石鎚登山の拠点として賑わった旧小松町黒川地区では、お山開き大祭の期間中に生理の女性が出ると、数キロ離れた地区のヒマヤまで追い立てたといいます。宿が「猫の手も借りたい」ほど忙しい時期であっても、あえて下山させていた事実に、当時の不浄観念の強さを思い知られます。西之川でヒマヤ生活を経験した人はもうおられませんが、最後に行われたのは昭和12年頃だったと聞き及んでいます。こうした伝

承は、昭和の末年頃まで姑から嫁へと語り継がれていました。

現在、大保木地区公民館の「郷土かるた」では、ヒマヤを「昔女のかくれ宿」と詠んでいます。しかし、これでは実態と逆の「優雅な隠れ家」のように伝わってしまう懸念があります。

負の歴史も含めた「民俗誌」として正しく後世に残るよう、一市民として望んでいます。



西海さんの研究内容や西条市の歴史民俗に関する
史跡など興味のある方はお問い合わせください。

問合せ 市庁舎本館3階 人権擁護課
TEL0897-52-1460

有料広告